

2019年度 事業計画書

2019年4月1日から

2020年3月31日まで

公益社団法人自動車技術会

2019 年度事業方針

自動車に関する新たな技術領域での取り組みを積極的に進めるとともに、世界に向けた技術情報発信力および国際標準の場での発言力を強化し、日本のプレゼンス向上と世界的影響力向上を目指す。

特に CASE、MaaS 等がもたらす新たなモビリティ社会への対応では、従来の自動車技術の枠組みを越えた研究・開発が必要となる。また、これらの普及に向けては技術開発と並行して社会受容性醸成が必須となり、新たな課題に真摯に対応する技術者のモラル意識向上や新技術の認知度向上を進めるため、人材育成や広報活動等への新施策展開が急務である。こうした課題に取り組むためには、本会の推進体制強化は勿論、必要な領域を見定めて他学協会や他産業との協調・連携を深めるとともに標準化等の事業においても実行可能な施策推進を加速する。

具体的には、2018年度に改定公開した“2050年チャレンジに基づく「ロードマップ」”の着実な実行を軸に本会の事業を精査し、喫緊の課題および重要な施策を推進するためにメリハリを付けた予算編成とする。また、事業の状況によってはスクラップ・アンド・ビルドを積極的に進め、リソースの有効活用につなげる。

1. 2019年度事業計画の考え方と基本方針

① 国際・国内標準化活動の推進

- ・規格会議ロードマップに掲げた標準化活動推進に関する機能強化（戦略企画、人材育成・支援、外部連携）に関し、2019年度は、国際規格原案作成支援等の人材育成・支援強化の具体策について検討・実施する。
- ・TC22（自動車）分野では、「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画」の中間レビューに基づく活動を推進する。また、ISO/TC22が作成するロードマップでは、日本が国際議長・幹事国を務める TC22/SC32（電子・電装領域）および国際議長を務める TC22/SC38（モーターサイクル・モペッド）における活動を始めとして、有益な標準作成を戦略的かつ積極的に提案し我が国の貢献を示す。
- ・TC204（高度道路交通システム:ITS）分野では、「ITS 分野の国際標準化戦略5か年計画（2018）」に基づく活動を推進する。また、日本がコンビーナ（議長）を務める WG14（走行制御）において、ICV（インテリジェント・コネクテッド・ビークル）/インフラ協調システム領域に関する標準化を積極的に提案しリードする。
- ・自動運転技術の標準化では、TC22と TC204が連携する自動運転標準化検討会において、日本自動車工業会他、関連省庁/団体（他業界を含む）との連携を密にする。また、重点標準化領域（自動運転、電動車、情報通信/情報セキュリティ）における国内外の新規作業項目に対して、All Japan としての活動を推進するとともにレベル3以上の自動運転技術において標準化活動と連動、協調した標準化活動を行う。
- ・国際標準化活動の意義や重要性、取り組み状況、活動成果を広く紹介することで、理解促進を図るとともに、標準化人材育成プログラムに活用する。
- ・欧米との戦略的協調体制およびアジア地域における国際標準化活動連携体制の構築を推進する。

② 人材育成事業の拡充と推進

- ・地域および新技術を含む分野包括的にエンジニアおよび将来のエンジニアを発掘・育成するため、内外さまざまなステークホルダと連携しつつ、事業の実効性を高め人材育成のハブ機能と展開力を強化する。
- ・自動車技術の裾野の拡大に対応するため、情報通信系や理数学系の技術習得および人材確保に向けた新たな教育プログラムを提供する。
- ・自動運転技術など新たな技術領域の人材育成を目的とする新教育プログラム（競技）を実施する。
- ・学生フォーミュラ日本大会2019において、日本チームの海外大会への参加支援策を検討するとともに、参加申込時の優先順位を変更することにより海外チームの受入数を拡大し、大会のグローバル化を図る。また、更なる認知度向上のため、全国放送を継続するとともに原資確保のための枠組みを検討する。
- ・自動車・自動車産業に関心を持ち、職業として認知することを一つの目標とした、中高生向けの新たな動機づけ体験・教育プログラムを検討する。
- ・小学生に理科への興味や自動車への関心を育むため、キッズエンジニアの内容を充実させるとともに、ジュニアメンバー制度の設立を通じてつながりを太いものにする。

③ 最新自動車技術の継続発信と技術者交流の促進

- ・新技術領域をタイムリーに取り込むとともに、技術者交流の場として人とくるまのテクノロジー展の充実およびシンポジウムならびにフォーラム等での新技術領域連携を推進する。
- ・人とくるまのテクノロジー展は、新技術領域、注目技術の発表・展示の更なる充実を図るため、横浜・名古屋双方を一体とし、発展的拡大を目指す。

④ 将来技術にフォーカスした研究開発の加速・新しい共創環境の構築を目的とした技術交流の促進

- ・共同研究センター「自動運転委員会」の技術分野の見直し・再構成を行い、技術会議に「自動運転技術委員会」設立を検討する。
- ・新技術領域として「安全工学」「新素材」などの委員会設立を検討する。
- ・学際領域として「社会交通システム」「通信技術」などの委員会設立を検討する。

⑤ 会員満足度の高い刊行物の継続発刊と論文集事業の強化

- ・英文ジャーナルのインパクトファクター取得のため、Web of Science への収録実現に向けた具体的施策を継続実施する。
- ・論文集編集委員会の体制強化ならびに論文査読システムの更新により論文の投稿受付から掲載までの期間短縮を実現する。
- ・「より読まれる会誌」の実現に向け、特集記事の構成他を見直した、新構成の会誌を2020年度から発行すべく準備を進める。
- ・自動車技術文献抄録誌をより活用される文献抄録集への転換を図るべくデータベース化の検討を進める。
- ・JSAE エンジンレビューをウェブによる技術情報発信の一つのモデルとするべく、ページの作りを刷新する。
- ・自動車工学図書ラインナップ充実のための取り組みを継続する。

⑥ 会員サービスの拡充

- ・既存会員の利便性向上のため、年会費のクレジットカード支払導入を本格化する。
- ・既存会員およびグループ事務取扱担当者からのニーズに応えるため、会員情報システムの改修・関連システムとの連携を進める。
- ・発信力強化

2. 予算編成の基本方針

- ・公益法人に求められる財務3要件である、① 収支相償、② 公益目的事業比率50%以上、③ 遊休財産額の保有制限に対する率100%以内を満たす予算を策定する。
- ・新規会員獲得及び既存会員の満足度向上を意識した支出・投資予算を策定する。

1 総 会

第9回定時総会を2019年5月23日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において開催する。予定議案は次のとおり。

議決事項 2018年度決算報告の件、理事交代の件、名誉会員推薦の件

報告事項 2018年度事業報告の件、2019年度事業計画の件、2019年度予算の件

2 役員会

2.1 理事会を4回開催する。

2.2 会の運営を円滑に図るため会務担当理事会を3回、各支部間及び本部との調整を図るため支部担当理事会を2回開催する。

3 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、最新の技術課題に取り組み、部門委員会活動に反映するとともに、その活動成果を学術講演会、フォーラム、シンポジウム・講習会および国際会議などを通じて社会に広く情報発信し、自動車技術の更なる進歩向上に寄与する。

共同研究センターでは、産学官連携事業、他学協会との連携事業、受託事業を推進し、研究・技術に対する提言を行う。

技術会議運営検討委員会と共同研究センター運営委員会が連携し、新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の企画・設置・改廃検討を行う。

3.1 技術会議

(1) 技術会議

技術の向上を目指す各種活動の企画、推進、調整のための議論を行い、技術会議組織の適正な運営を図る。

(2) 部門委員会・特設委員会

46 部門委員会が各種技術課題に取り組み、活動成果を会員・社会に還元する。

- ① 2019 年春季大会において、オーガナイズドセッション、ならびにフォーラムを開催する。
- ② 2019 年名古屋展示会において、フォーラムを開催する。
- ③ シンポジウム・講習会を開催する。
- ④ 公開委員会の開催、会誌記事掲載、ならびに技術報告書の発行他を行う。

(3) 学術講演会運営委員会

春季・秋季の学術講演会の活発化を図る。

(4) 国際会議等への対応

下記委員会により 2019 年度に開催する国際会議の開催準備を進める。

<担当委員会>

- ① 2019P, F&L 実行委員会（会期：2019年8月25日～29日 会場：京都テルサ 京都）
 - ② SETC2019 実行委員会（会期：2019年11月19日～21日 会場：広島国際会議場 広島）
 - ③ 第30回内燃機関シンポジウム実行委員会（会期：2019年12月10日～12日 会場：広島）
- P, F&L: Powertrains, Fuels & Lubricants Meeting, SETC: Small Engine Technology Conference

(5) 他学協会との連携

- ① 自動車用材料共同調査研究会（材料部門委員会と日本鉄鋼協会）
- ② 自動車制御とモデル委員会と計測自動制御学会との連携
- ③ マルチマテリアル構造設計技術調査委員会（構造形成技術部門委員会と新構造材料技術研究組合）

3.2 共同研究センター

(1) 委員会

下記4委員会により活動を推進する。活動成果は、学術講演会やフォーラム、または技術報告書等により会員・社会に還元する。

- ① 自動運転委員会
- ② 将来の車外騒音検討委員会
- ③ 傷害予測による事故自動通報システムの高度化と普遍化に関する検討委員会（仮）
- ④ 自動運転総合信頼性検討委員会（仮）

(2) 他学協会との連携

2019年度は無

3.3 研究調査事業

技術会議の8委員会が9テーマで実施（総額予算6,635千円）

3.4 受託事業

技術会議及び共同研究センター傘下の委員会により以下を実施する。

- (1) SAE World Congress 等海外におけるPM研究動向の最新研究調査
(大気環境技術・評価部門委員会／受託先：日本自動車工業会)
- (2) 今後の車外騒音規制のあり方に関する調査（将来の車外騒音検討委員会／受託先：環境省）

PM: Particulate Matter

4 研究発表会及び学術講演会等の開催

（定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業）

春季及び秋季大会は、学術講演会を中心に多くの技術者の交流の場とする。「人とくるまのテクノロジー展」は5月春季大会時の横浜、並びに7月名古屋の年2回の開催とする。

4.1 春季大会

2019年5月22日（水）～24日（金）にパシフィコ横浜（横浜市）で開催する。学術講演会のほか、人とくるまのテクノロジー展2019横浜、Keynote Address、各種フォーラム、JSAE Annual Party（技術者交流会）を開催する。

4.2 秋季大会

東北支部の協力を得て、2019年10月9日（水）～11日（金）に仙台国際センター（仙台市）で開催する。学術講演会、Technical Review、市民公開特別講演、産学ポスターセッション、学生フォーミュラ車両展示、秋季大会パーティ（技術者交流会）を実施する。

4.3 自動車技術展

① 人とくるまのテクノロジー展 2019 横浜（2019年5月22日（水）～24日（金））

パシフィコ横浜（横浜市）

「新たな自動車技術が支える地域創生—革新的社会インフラと融合した“くるま”進化の方向性」をテーマに講演会・技術展示を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る新車開発講演を実施する。屋外では最新車の公道試乗会を実施する。

② 人とくるまのテクノロジー展 2019 名古屋（2019年7月17日（水）～19日（金））

ポートメッセなごや（名古屋市）

「新たな自動車技術が支える地域創生—革新的社会インフラと融合した“くるま”進化を生み出す重要技術」をテーマに技術展示を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る新車開発講演や中部支部企画の講演会を実施する。屋外では最新車などの公道試乗会を実施する。

4.4 シンポジウム・講習会

技術会議及び共同研究センター傘下の各委員会企画により 26回開催する。

4.5 国際会議

専門技術分野の国際会議を以下のとおり開催する。

- ・ JSAE/SAE 2019 International Powertrains, Fuels and Lubricants Meeting（2019 P, F&L）
2019年8月26日～29日 京都テルサ（京都）
- ・ Small Engine Technology Conference 2019（SETC 2019）
2019年11月19日～21日 広島国際会議場（広島）
- ・ 第30回内燃機関シンポジウム
2019年12月10日～12日 広島国際会議場（広島）

5 学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号、公益目的事業1・2・3）

自動車に関する学術・産業の振興への寄与のために、各種出版物の刊行によって自動車技術情報を広く会員、および国内外に発信するとともに、編集会議 2050年ロードマップの各項目の実現に向けた具体策を継続実施する。

5.1 資料収集・調査研究に関する学術誌の発行（公1）

(1) 会誌「自動車技術」

- ・ 各号特集テーマを設け（8月年鑑号を除く）、最新の技術動向に沿ったタイムリーな記事を掲載し、毎月発行する。
- ・ 海外への技術情報発信の一環として、8月年鑑号英訳版のウェブサイト公開を継続する。

- ・「より読まれる会誌」の実現に向け、特集記事の構成他を見直した新構成の会誌を2020年度からの発行に向けて準備を進める。なお、表紙に各メーカーの製品写真掲載を復活させる。
- (2) 「自動車技術文献抄録誌」を毎月発行し、海外文献を中心とした有益な情報を提供する。なお、誌名は「自動車技術－文献抄録集－ ～世界の技術動向がわかる～」に変更する。また、より活用される抄録集への転換を図るため、データベース化についての検討を開始する。
- (3) 「JSAE エンジンレビュー」を電子版不定期刊行物として継続発行するとともに、閲覧ページの作りを刷新する。
- (4) 「日本の自動車規格」の日本語版 (DVD)、および英語版 (WEB) を発行する。
- (5) 第69回自動車技術会賞技術開発賞受賞者のインタビュー集である「オートテクノロジー2020」を発行する。
- (6) 「人とくるまのテクノロジー展」と連動した記事広告誌「テストングツール最前線」および「次世代自動車技術最前線」を発行する。
- (7) 「高翔」(関東支部企画・編集)、「宙舞」(中部支部企画・編集)、「関西支部ニュース」(関西支部企画・編集)を発行する。

5.2 研究発表に関する学術誌の発行 (公2)

- (1) 「自動車技術会論文集」
 - ・ J-STAGE にて年6回発行する。
 - ・ 2018年に新たに導入したオンライン論文投稿査読システムの安定稼働を目指すとともに投稿～掲載までの期間を短縮する。
- (2) 「International Journal of Automotive Engineering (IJAE) : 英文ジャーナル」
 - ・ J-STAGE にて年4回発行する。
 - ・ Impact Factor 取得に向けた具体的施策を継続実施する。
 - ・ IJAE ホームページを刷新する。
- (3) 春季・秋季大会学術講演会講演予稿集 (DVD)、およびフォーラム資料を発行する。

5.3 人材育成に関する学術図書の発行 (公3)

- (1) シンポジウム及び講習会資料を発行する。
- (2) 会誌自動車技術において教育的記事(モデルベース開発関連)を連載する。
- (3) 新版「自動車技術ハンドブック人間工学編(第3分冊)」をベースとした自動車人間工学に関する英文書籍を発刊する。
- (4) 関西支部学自研機関誌「関西支部学自研ニュース」(2回)、九州支部学自研機関誌「Eternal Car Life Vol.22」を発行する。

5.4 広報関連他の発行

- (1) 「学生フォーミュラ日本大会2019レビュー」(ウェブ版)を発行する。
- (2) JSAE メールマガジン(インターネット配信)を週1回発行する。
- (3) 国内への広報活動としてプレスリリースを発行すると共に、ニュースレターJSAE Eye の日英版をそれぞれ年4回発行して国内外への広報に努める。

- (4) 支部だより（北海道支部1回）、行事案内（関東支部3回、関西支部7回）、支部ニュース（中部支部6回）を発行する。

5.5 その他

- (1) 本会の書籍や文献購入者の利便性向上を目的とした販売サイトのリニューアルについて検討を開始する。

6 人材の育成（定款第5条4号、公益目的事業3）

次世代エンジニアの育成の活動として、小学生向けに「キッズエンジニア」、中高生を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム（学習・コンテスト・進路案内）」、大学生向けに「学生フォーミュラ日本大会 2019」等ものづくり教育の場を提供する。また、新技術分野の人材発掘、育成のため「自動運転 AI チャレンジ」を 2018 年度に引き続き開催する。学生自動車研究会活動を全国で展開し、工学・工業への興味を喚起し次代を担う技術者育成に努める。また、技術者認定制度及び各種講座・講習会の開催により、技術者の継続能力開発（CPD）を支援する。

6.1 自動車工学基礎講座

タイ国内で 2019 年 4 月に開催するのを皮切りに、6 月、7 月に広島、9 月に名古屋、12 月に関西、2020 年 3 月に東京で開催する。その他、二輪エンジニア向け講座、地方自治体や賛助会員向けの講座も継続開催する。

6.2 自動車工学中級講座

中堅技術者を対象とし、技術者育成委員会及び技術会議傘下部門委員会や共同研究センター傘下の委員会と共に企画・実施する。

6.3 技術者育成講座

新入会員や学生会員を対象とし、自動車技術会の活動に参加する契機となることを目指した講座を、東京・名古屋において企画・実施する。

6.4 サイバーセキュリティ講座

自動車のサイバーセキュリティに関する講座の内容を拡充し、8 月に開催する。

6.5 自動車開発・製作セミナー

学生フォーミュラカーを題材とした自動車開発・製作セミナーを継続開催すると共に、学生にとって有益な情報を配信する。

6.6 支部の講演会・見学会等

- (1) 北海道支部：講演会3回（地方講演会、共催を含む）、見学会1回、市民講座4回を開催する。
- (2) 東北支部：講演会2回、見学会2回（関東支部との共同企画含む）社会貢献活動として市民講座10回、次世代自動車技術フォーラム2回を開催する。
- (3) 関東支部：講演・講習会12回、見学会11回、支部社会活動として公開講座を開催。学生の国際交流活動を継続実施する。技術者交流会を開催する。社会貢献活動として第10回群馬県高校生電気自動車大会に参画する。

- (4) 中部支部 : 講演会3回、研究発表会1回、見学会14回、技術講習会5回、技術者懇談会3回、技術交流会2回、体験型講習会2回を開催する。
- (5) 関西支部 : 見学会6回、講演会1回、技術者懇談会1回、技術者交流会1回を開催する。
- (6) 九州支部 : 関西支部との合同例会1回、講演会3回、見学会2回、市民講座3回、技術者交流会1回を開催する。

6.7 技術者・研究者の認定制度

自動車エンジニアレベル認定において技術的な能力開発や実務経験の実績により技術レベルを認定する。

6.8 学生フォーミュラ日本大会2019ーものづくり・デザインコンペティションー

2019年8月27日(火)～31日(土)の5日間にわたってエコパ(小笠山総合運動公園、静岡県掛川市/袋井市)で開催する。

6.9 自動運転AIチャレンジ

第2回となる自動運転AIチャレンジを2019年度中に開催する。

6.10 キッズエンジニア2019

2019年8月7日(水)～8日(木)にポートメッセなごや(名古屋市)で開催する。

6.11 支部の小学生プログラム

- (1) 北海道支部 : 市民講座として子供向けイベント「キッズエンジニア」を4回開催する。
- (2) 東北支部 : クルマへの関心とものづくりへの興味を高める目的として「キッズエンジニア in 東北2019」を2回(支部主催:会場はスリーエム仙台市科学館と福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館とし協力企業及び本部と連携)と「自動車の作り方と東北の自動車工場」、「第5回走るペーパーカーの製作及び走行距離競技大会」を各1回開催予定。
- (3) 関東支部 : 「小学生くるま未来体験教室」を8回開催(うち1回は他支部との共同開催)
- (4) 中部支部 : 「キッズ・モノづくりワンダーランド」を10回開催する。(うち1回はキッズエンジニアに出展)。
- (5) 関西支部 : 「キッズエンジニア」を2回開催する。
- (6) 九州支部 : 小学生向けイベントを開催

6.12 学生活動企画委員会

全国6支部による学自研活動をはじめとする学生活動の連携、推進、支援を行う他、学生委員による企業訪問、イベント訪問などを取材し、ウェブやSNS(Facebook)を用いて学生向け情報発信などの活動を行う。

6.13 JSAE ナイトセミナー

平日終業後の情報収集・継続学習機会を提供するため、JSAE ナイトセミナーを継続開催する。中継やネット配信等の技術を活用し、地域、場所の制約を受けない学びの場の提供を行う。

6.14 学生安全技術デザインコンペティション

2019年3月の日本大会で選考した日本代表チームを、第26回ESV国際会議(2019年6月、オランダ、アイントホーフェン)で開催される「第8回学生安全技術デザインコンペティション」へ派

遣する。

6.15 中高生等を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム」

中高生等を対象として、創造的なカーデザインの魅力を喚起し、職業意識を目覚めさせる機会を提供することを目的とした人材育成プログラムとして、ウェブサイト上に学習プログラムと進路案内を公開、及び第8回カーデザインコンテストを実施する。(企画：デザイン部門委員会)

6.16 学生自動車研究会 (以下学自研)

(1) 北海道支部

学自研参与・学生委員合同会議1回、学自研参与会議2回、夏のドライビングコンテスト1回、若手技術者との交流会1回、雪氷路セーフティドライビングコンテスト1回、車検講習会1回、合同試走会2回、学生フォーミュラ日本大会2019参戦報告会1回を開催。学生フォーミュラ日本大会2019に1校が参加予定。

(2) 東北支部

支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、特別講演会1回、見学会1回、第38回タイヤ研修会、第29回自動車技術独創アイデアコンテスト1次・2次、第30回手作り自動車省燃費競技大会、第34回自動車整備コンテストを各1回開催。学生EVフォーミュラ支部試走会4回、機械車検会1回、EV車検会1回開催。第17回全日本学生フォーミュラ日本大会2019へ2チーム参加予定。

(3) 関東支部

支部学自研大会1回、支部学生委員会12回、支部学術研究講演会・特別講演会1回、見学会・講習会等を6回開催。学生フォーミュラ活動を積極支援し第16回全日本学生フォーミュラ日本大会2019に参加。並行してフォーミュラ試走会を支部合同で1回、支部単独で3回開催。

(4) 中部支部

参与会2回、学生委員会5回、学生委員会引継会1回、卒業研究発表講演会1回、ものづくりセミナー1回、3支部合同試走会1回、人とくるまのテクノロジー展2019名古屋(プレゼン、フォーミュラカー展示)1回、走行技術トレーニング3回、中部支部交流会1回、東京モーターショー視察1回、ドライビング講習会1回、スズキエンジン講習会1回、雪上ドライビング講習会1回、カート耐久レース1回を開催。また、中部支部社会貢献事業への支援を実施。

(5) 関西支部

参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、見学会8回、キッズエンジニア、危険回避運転講習会、新車試乗技術説明会、卒業研究発表会、学自研入会説明会各1回開催。支部学自研ニュース発行2回。学生フォーミュラ関係は運営委員会を12回開催し、講習会・勉強会計8回、試走会6回開催。

(6) 九州支部

支部学自研総会1回、研究発表会1回、講演会1回、見学会2回、安全運転講習会1回及び懇親会1回開催。第17回全日本学生フォーミュラ日本大会2019へ7校がエントリー予定。学生フォーミュラ試走会5回、勉強会2回を開催。学自研機関紙発行1回。

7 規格の作成及び普及（定款第5条5号、公益目的事業1）

自動運転・電動車・コネクティッド等に関して、主要各国とも精力的に研究開発をすすめており、技術進化と合わせて国際標準化にも積極的に取り組んでいるため、ISO/TC22（自動車）とISO/TC204（高度道路交通システム）の活動が活発化している。自動車標準化委員会（ISO/TC22）とITS標準化委員会（ISO/TC204）は、各分野において、日本自動車工業会、日本自動車研究所、関連省庁/団体と連携し、日本の優れた技術（自動運転、電動車、情報通信/情報セキュリティ等）の標準化活動を通じて世界への貢献及び普及促進を目指す。特に、自動運転の国際標準化に関して、自動運転標準化検討会において両委員会の連携を図るほか、自動運転基準化研究所（JASIC）において基準と標準の連携を図る。

7.1 自動車標準化委員会及びJIS/JASO規格審議委員会（自動車分野）

「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画（2016年度～2020年度）」の中間レビューに基づき、自動運転、電動車、情報通信/情報セキュリティ領域の重点テーマをはじめとして、戦略的な標準化活動を推進する。また、規格会議ロードマップの主要施策を推進するとともに、戦略企画機能、標準化推進機能、外部連携の更なる強化に取り組む。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC22）

- ①日本が国際議長・幹事国を務めるTC22/SC32（電子・電装領域）および国際議長を務めるTC22/SC38（モーターサイクル・モペッド）における活動を中心として、自動運転・電動車・情報通信/情報セキュリティ領域の重点テーマ等について、我が国の貢献を示しつつ、有益な標準化を戦略的に提案する。
- ②規格会議ロードマップの主要施策の実行推進と実施検討を行う。
- ③日本自動車工業会（国際標準検討会・自動運転検討会）、日本自動車研究所（ISO/TC22/SC37）、日本自動車部品工業会等の関係団体との連携強化を図る。
- ④日欧米の交流を継続するとともに、アジア地域の標準化活動を促進させるためにアジア諸国との連携を図る。
- ⑤ISOエキスパート、ISO対応委員会委員などを対象にISO研修会を開催する。
- ⑥ISO等の規格活動への理解促進を図るため、標準化活動レポートの会誌掲載などによる広報活動を進める。

(2) 国内標準化活動（JIS/JASO）

- ① JASO 制定3件・改正5件、テクニカルペーパー制定2件・改正3件、JIS 改正4件及び標準化調査4件を行う。
- ② JIS・JASO 原案の質の向上を図る為、JIS・JASO 原案を作成する委員会委員を対象に規格原案作成講習会を実施する。

7.2 ITS標準化委員会（高度道路交通システム分野）

2018年度に策定した「ITS分野の国際標準化戦略5ヶ年計画（2019年）」並びにスマートモビリティシステムに関する国際標準化(受託)実施計画に沿って、特に日本が議長国であるWG3（ITSデータベース技術）とWG14（走行制御）において、国際標準化活動を戦略的に推進する。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC204）

- ① 第53回（於フロリダ、米国）および第54回（於クアラルンプール、マレーシア）のTC204総会への日本代表団派遣を派遣し、日本の貢献をより高めていく。
 - ②TC204/WG14では効率的な国際会議の運営を推進するとともに、SAE（米国自動車技術会）やETSI（欧州電気通信規格協会）などと連携しつつ、モーターウェイショーファーシステムなどの日本提案の作業項目やその他重要な作業項目の策定を推進する。
 - ③TC204/WG3では、ダイナミックマップに係わる日本提案の作業項目などを推進する（日本デジタル道路地図協会）。
 - ④ 欧米におけるITS分野の産業界の動向に関する情報収集を行い、標準化への影響について分析する。
 - ⑤ ITS世界会議（於シンガポール）において標準化セッション又は会合を実施し、アジア太平洋地域のITS関係者に最新の国際標準化活動を紹介する。
- (2) 国内標準化活動
- ① ITS標準化委員会・技術委員会について、本会が事務局として活動する。分科会は、本会（WG14）のほか、日本自動車研究所（WG1）、日本デジタル道路地図協会（WG3）、UTMS協会（WG9、10）、道路新産業開発機構（WG5、7、18、19）、国土技術研究センター（WG8）及び電子情報技術産業協会（WG16、17）が分担して事務局を担当する。
 - ②リエゾン関係にあるTTC（情報通信技術委員会）及びARIB（電波産業会）との連携を強化すると共に、ITS Japanや日本自動車工業会などの関係業会団体とも連携する。
 - ③パンフレット「ITSの標準化2019」を製作し、標準化活動の普及・啓蒙に活用する。
 - ④ ITS分野の国際標準化戦略5ヶ年計画（2020年）を策定する
 - ⑤ ITS分野の国際標準化に関する専門家会議を開催する。

8 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

（定款第5条6号、公益目的事業2）

従来の活動を継続推進する一方、関連学協会やアジア各国との連携をさらに強化し相互の利益を図る。

8.1 国内関連機関及び団体との連携

- (1) 日本学術会議の協力学術研究団体として学術振興に努める。
- (2) 日本工学会の加盟団体として他学会との連携に努める。
- (3) 経済産業省の日本工業標準調査会（JISC）の自動車他、各技術専門委員会に委員を派遣し積極的に参画する。
- (4) 各国国土交通省が主催する第26回ESV国際会議（2019年6月オランダ）で開催される「第8回学生安全技術デザインコンペティション」に日本代表チームを派遣する。
- (5) 本会が幹事となり、日本機械学会と第30回内燃機関シンポジウムを共催する。
- (6) 日本自動車工業会国際標準検討会、および自動運転検討会と連携し情報交換を行い、標準化活動を実施する。
- (7) 日本鉄鋼協会と材料部門委員会が共同設置した「自動車用材料共同調査研究会」の活動を引き続き推進する。

- (8) 自動車制御とモデル委員会と計測自動制御学会の連携活動を引き続き推進する。
- (9) 構造形成技術部門委員会と新構造材料技術研究組合（IZMA）の連携活動を引き続き推進する。

8.2 国外関連機関及び団体との連携

- (1) 2019年8月に開催する学生フォーミュラ日本大会2019ーものづくり・デザインコンペティションーに、アジアなど海外からの参加を得る。
- (2) 学生フォーミュラ日本大会2019の機会を利用して各国との交流促進を図る。
- (3) 中国自動車工程学会年会におけるフォーラム開催など、中国自動車工程学会（SAE-China）との連携を推進する。
- (4) 韓国自動車工学会年会におけるフォーラム開催など、韓国自動車工学会（KSAE）との連携を推進する。
- (5) 第4回自動車工学基礎講座 in タイ（2019年4月2日～4日、バンコク）を在タイ日本大使館の後援を得て、NSTDA（タイ国立科学技術開発庁）と共催する。
- (6) FISITA の執行役員会並びに理事会に副会長、理事を派遣して協力する。
- (7) FISITA World Mobility Summit 2019（2019年11月5日～6日、名古屋）の開催に協力する。
- (8) APAC-20（2019年4月1日～4日、バンコク）の開催に協力する。
- (9) APAC Members Meeting などの開催を通じて、アジア地域の連携を強化する。
- (10) 2019 P, F&L（2019年8月26日～29日、京都）を SAE International と共催する。
- (11) SETC2019（2019年11月19日～21日、広島）を SAE International と共催する。
- (12) 欧州、米国やアジア諸国の主要な標準化団体との連携を促進する。
- (13) ITS 国際標準化活動に係わるアジアの仲間づくり並びに普及促進を目的として、ITS 世界会議（2019年10月21日～25日、シンガポール）関連催事を実施する。

ESV:International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies

APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

P,F&L: Powertrains, Fuels and Lubricants Meeting

SETC: Small Engine Technology Conference

9 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業3）

自動車技術会賞等各賞の社会への周知を図り、賞の価値を高めていく。

9.1 技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

- (1) 自動車技術会賞：学術貢献賞、技術貢献賞、浅原賞学術奨励賞、浅原賞技術功労賞、論文賞、技術開発賞の各候補者の積極的な募集を図り、各賞の主旨に相応しい優秀な業績に対し表彰を行う。
- (2) 技術教育賞：優れた人材育成活動を行った個人若しくはグループを表彰する。
- (3) 優秀講演発表賞：春季・秋季学術講演会の優秀講演者を表彰する。
- (4) 技術部門貢献賞：技術会議の各部門委員会の活発な活動を行った個人を表彰する。
- (5) 自動車技術会フェロー：本会活動への多大な貢献をした個人に授与する。
- (6) 標準化活動功労感謝状：標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。

- (7) ITS 標準化活動功労感謝状：ITS 標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (8) 編集・出版功績感謝状：本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (9) 学術講演会運営功績感謝状：学術講演会の運営に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (10) 技術者育成功績感謝状：本会の技術者育成活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。

9.2 学生対象の業績表彰

- (1) 大学院研究奨励賞：優れた研究を行った大学院修了予定者を表彰する。
- (2) 学自研功労賞：学生自動車研究会の活動で特に功労のあった学生を表彰する。

10 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(定款第5条8号)

公益法人として会務運営について厳格に関係法令を遵守し、また社会倫理に適合した公正で誠実な活動を推進する。

本部・支部ウェブサイトの利便性向上及び掲載情報の充実と共に、国内外への情報発信・広報活動強化に努める。

既存会員の満足度向上、及び従来の自動車産業の枠組みを越えた技術領域の技術者などの新たな会員層を取り込むため、会員サービスの拡充を推進する。

- 10.1 法令、ならびに定款・規則を遵守した会の運営を行う。また、総会、理事会の運営を適正に行い、今後予定される国からの監査にも問題なく対応できるようにする。
- 10.2 公益社団法人として必須の①収支相償、②公益目的事業比率50%以上、③遊休財産額の保有制限の充足を安定的に達成していける事業構成とする。
- 10.3 「2050年チャレンジ」に掲げた新規事業を実行に移していく。
- 10.4 システム構築
 - (1) 本部ウェブサイトのリニューアルを継続し、会員向けコンテンツの拡充を行う。
 - (2) 本部・支部ウェブサイトのセキュリティ・可用性向上対策を進める。
- 10.5 支部総会・役員会
 - (1) 北海道支部：支部通常総会1回、特別講演会1回、支部理事会2回を開催する。
 - (2) 東北支部：支部通常総会1回、特別講演会2回、支部理事会3回、支部顧問会1回、学自研参与会2回を開催する。
 - (3) 関東支部：支部通常総会1回、顧問会1回、理事会3回（内、顧問同席2回）、担当理事会30回を開催する。
 - (4) 中部支部：支部通常総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、担当幹事会4回、さんぼう会2回、各事業別企画委員会を開催する。

- (5) 関西支部 : 通常総会1回、理事会2回、合同会議1回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回を開催する。会員増強のため、会員・魅力拡大会議3回を開催する。
- (6) 九州支部 : 支部定時総会1回、理事会2回、常任理事会4回を開催する。

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・ 調査及び研究（定款 5-1）
- ・ 規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・ 内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAE 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・ 人材の育成（定款 5-4）
- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・ 支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業